

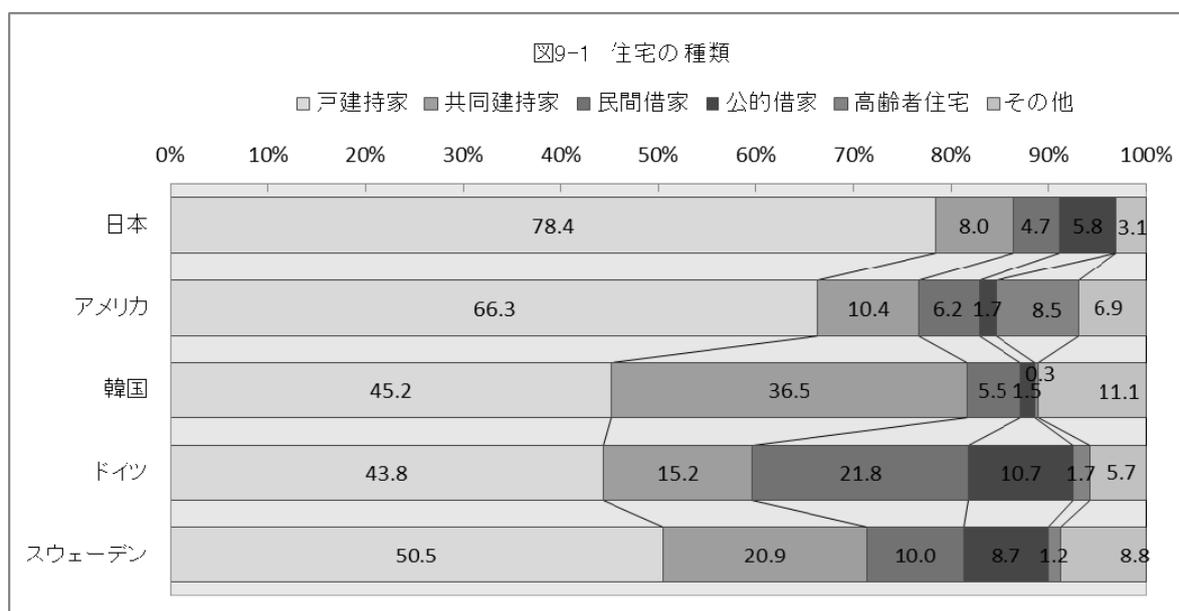
# 第9章 住宅・生活環境

明治大学理工学部教授 園田真理子

## I 居住する住宅の種類 (Q33)

### 1 5カ国別の特徴

高齢者の居住する住宅の種類についてみると、国による違いが顕著にある。日本の高齢者の戸建持家率の高さが際立って高いことが目立つ。(図9-1)



日本の場合は、78.4%が戸建持家に居住している。共同建持家に居住するものは8.0%、借家に居住するものは、民間借家4.7%、公的借家5.8%である。この日本の傾向に最も近いのはアメリカである。66.3%が戸建持家、10.4%が共同建持家に居住している。日本と異なるのは、高齢者住宅に居住しているものが8.5%いることである。この割合は他の国に比べても高い値である。

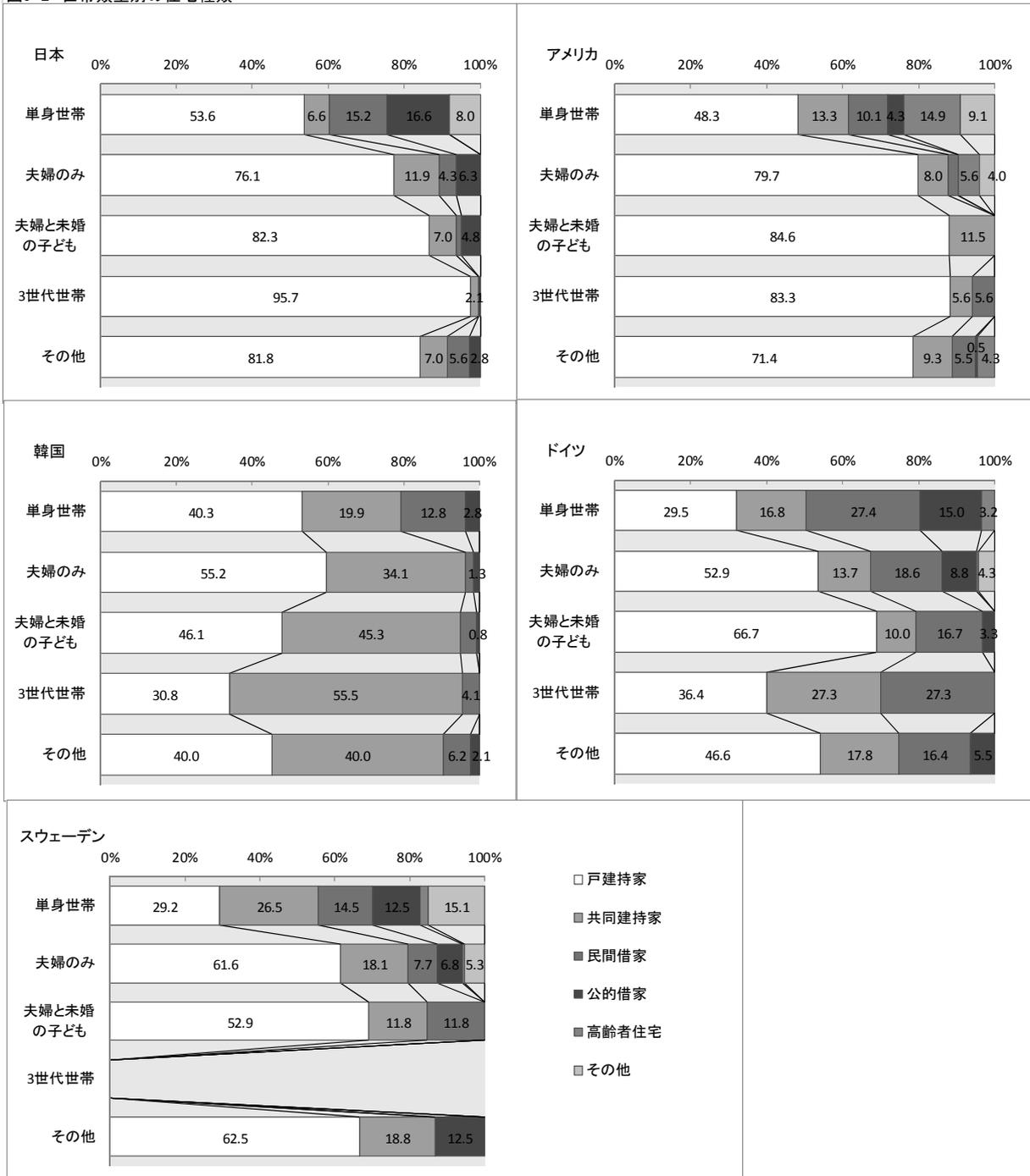
韓国は、持家居住が多いことは、日本、アメリカに類似している。しかし、戸建持家45.2%、共同建持家が36.5%と、いわゆるマンション居住が多いことが特徴的である。

スウェーデンは、戸建持家50.5%、共同建持家20.9%で、アメリカに次いで持家居住率が高い。その他の居住が8.8%ある。ドイツの場合は、5か国中、持家居住の割合が最も低く、戸建持家43.8%、共同建持家15.2%である。これに対して、民間借家21.8%、公的借家10.7%と借家居住が多い。特に公的借家に居住する割合は、5か国中最も多い。

## 2 世帯型からみた特徴

世帯型別の居住する住宅の特徴についてみる。(図 9-2)

図9-2 世帯類型別の住宅種類



日本の場合は、単身世帯のみ他の世帯型とは全く異なる状況を呈している。単身世帯の戸建持家率は53.6%で極端に低く、民間借家15.2%、公的借家16.6%と他の世帯類型に比べると著しく高い。

アメリカの場合は、日本と同様に、単身世帯のみ戸建持家率が48.3%と極端に低いという特徴がある。また、高齢者住宅に居住する者が14.9%を占め、約6人に1人と高率である。

韓国の場合は、単身世帯については持家率が他の世帯類型に比べて低く、民間借家が12.8%と高い。また、単身世帯、夫婦のみ世帯は戸建持家の割合（単身40.3%、夫婦55.2%）が、共同建持家より多い（単身19.9%、夫婦34.1%）が、家族人数が多い3世代世帯では、共同建持家の割合が55.5%と戸建持家の30.8%よりも高い。

ドイツの場合は、単身世帯は民間借家27.4%、公的借家15.0%で、借家居住率が極めて高い。3世代世帯の民間借家率が高いが、サンプル数が11しかないため有意とは考えられない。

スウェーデンの場合は、単身世帯では戸建持家居住が29.2%と低率であり、共同建持家26.5%、民間借家14.5%、公的借家12.5%が他の世帯類型に比べて多いという特徴がある。単身世帯の15.1%がその他に居住しているが、この「その他」とは、サービスハウスもしくはグループリビング等の特別な居住形態ではないかと考えられる。